

式 辞

春の温かい日差しのもと、合瀬川の桜が今年は早くも満開から鮮やかな新緑の葉を芽吹かせています。この良き日に、PTA会長 森さなえ 様を始めとして、PTA役員の皆様のご臨席を賜り、保護者の皆様とともに、第四十四回 愛知県立小牧南高等学校 入学式を挙行できますことを、高い席からではありますが、本校職員を代表し、厚くお礼申し上げます。

ただいま入学を許可しました 二百三十五名の新入生の皆さん、本校への入学おめでとうございます。教職員一同、皆さんの入学を心より歓迎いたします。また、今日のこの慶びの日を迎え、新入生の皆さんの感激はもとより、これまで細やかな愛情をもってはぐくんでこられました保護者の皆さま方にはお慶びも、ひとしおのことと推察し、心からお祝い申しあげます。

本校は昭和55年に開校し、本年度創立44年目を迎えます。創立当初から進学校として地域の信頼を築いてまいりました。卒業生も1万4千人を超え、各方面で活躍しています。

本校の校訓は「知(ち)・行(コウ)・恕(ジョ)」です。最初の二文字、知と行は、「知行合一」という言葉が由来となっています。この言葉

の意味は、「知識と行為は一体である。知っているだけで実践しないのは本当の知とは言えない」という意味です。学んだことを即実行に移す、積極性を心に銘じてください。

三つ目の文字「恕」は、中国古代の思想書『論語』を出典とし、「思いやり」を意味します。人は常に他者との関係を持ちながら生きています。他者と良好な関係を保つには、他者と接する中で、他者が喜ばない言動は思いやって避けてやり、自分がこうありたいと思うことを相手もできるようにしてやることです。この「恕」、思いやりの根底には、同じ人間同士、分かり合えるという信頼があります。人の集団が大きくなると、とかくルールを決めてという話になりがちですが、まずは日々顔を見合わせる身近な人同士の相互信頼がなければ、どんなルールを作っても守られないでしょう。対立と分断が昨今はびこるのは、これが忘れられているからではないでしょうか。牧南生は校訓の三つ目、「恕」に深く共感を抱き、日々「恕」を実践する修練を積み、人と人をつなぐ働きを社会で果たしてほしいと思います。

本校は、学問だけでなく、このように豊かな心を育てることを大事にする学校です。さらに言えば、普通科高校である本校は、直接

将来の職業選択や上級学校進学にのみ特化した、偏った教育活動は行いません。高校3年間という、短いけれども人間が最も成長するこの時期に、どれだけ幅広く興味・関心を持ち、何を深く学んだか、様々な活動に取り組みどれだけ努力したかを尊重します。生徒の進路希望を叶えるために必要な懇切な指導を当然行いますが、大切なことは10年あるいはそれ以上先の将来において、自らの可能性を大きく開くことができるような、すそ野の広さを養うことだと考えています。部活動や地域貢献活動にも積極的に取り組み、文化芸術に親しみ、友と語り、他者を思いやる経験を重ねることで、自分自身の考え方や価値観の基礎を確立することが、これからの社会で活躍する者にとって不可欠なことです。これを前提として、本校では様々な教育活動を展開しています。皆さんが求める限り本校は質の高い教育を提供していきます。

今日から皆さんは、高校生として新しい歩みを始めます。このかけがえのない3年間は誰のものでもない、みなさん一人一人のものです。ですから何事も決して人任せにすることなく、取り組むべき事柄については、粘り強く最後まで貫徹しましょう。そして、やるからには「本気で」取り組んでください。適当に済ますのではなく、

目の色を変えて何かに没頭することで、皆さんの奥底にある潜在力を目覚めさせてください。「本気でやればできないことはない」、そう念じて目の前の課題に一つ一つ全力で向き合ううちに、いつしかできないと思っていたことも楽々とクリアし、自分でも驚くほど大きく成長する、そんな牧南生に一人一人がなってほしいと思います。

皆さんの、健闘を祈ります

最後になりましたが、保護者の皆さまに申し上げます。本日より、大切なお子様をお預かりすることになりました。お子様の教育、指導を、おひき受けしましたうへは、生徒一人一人の内に秘めた可能性を最大限に伸ばすべく、全職員が一丸となり、情熱と愛情、時には厳しさをもって、全力で教育活動を推進し、保護者並びに地域の皆様方の御期待に精一杯こたえていく所存であります。御家庭におかれましても本校の指導方針を御理解いただき、諭すべきところがあれば親として毅然と対応していただきますようお願いいたします。

本校のさらなる飛躍のために、格別の御理解と御支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます、式辞といたします。

令和五年四月六日

愛知県立小牧南高等学校長 瀬尾 学

